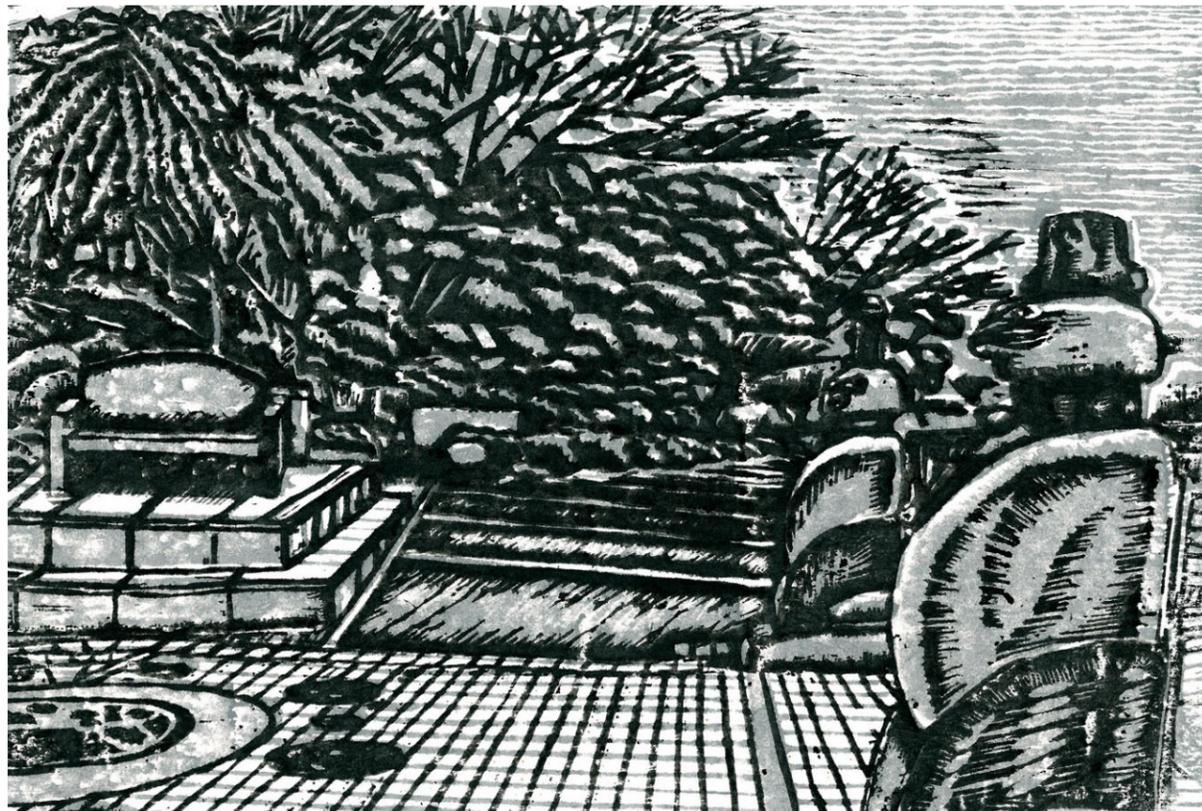


いたちかわらばん

通刊60号 鮒川・狹川 / 川原版・瓦版 12冬号



【版画 宗森英夫】

【大いたち橋休憩所】

「いたちかわらばん」六〇号を迎えて

十五年になりました。毎号一ページ目の上半分を木版画で埋めてきましたが、そのほとんどは、いたち川周辺の風景画です。下流の「いたち川橋」から中流の「石原橋」までの区間は、遊歩道が整備されているので、多くの方が歩いた経験をお持ちだと思います。絵の方も下流から中流の部分がほとんどで、上流部の絵はごくわずかです。支流の方は、住宅街を流れているため、絵になる場所が少なく、右支流では「瀬上池」「横堰」「慶長橋」の三点、左支流では荒井沢の「極楽広場」の一点しかありません。

いたち川には約六十の橋が架かっていますが、その大半を取り上げてしまったので、最近では、休憩所を取り上げています。風景画以外にカワセミ、オナガガモ、オシドリ等の野鳥やソメイヨシノの花がとりあげられています。写真ですと、源流から下流まで、一日で撮れます。シーズン毎に撮っても四回ですみます。しかし、木版画ですと描いて、彫って、摺る訳ですから六十点の作品を制作するのに十五年もかかってしまいました。原画の大きさは、この「かわらばん」一ページくらいの大きさです。この「かわらばん」は二色刷り（墨版と灰版）なのですが、印刷では灰色がうまく出ず一色刷りとあまり変わらないものになっていきます。原画を見る機会がありましたら、ぜひその違いを見ていただきたいと思っております。

駅前で過ごすスローな夜

11月18日(日)本郷台駅前広場にて、10回目の開催となる「キャンドルナイト in さかえ」を開催しました。

徐々に日が暮れる中で始まったキャンドルナイト。17時の点灯式には多くの方が集まり、カウントダウンの合図とともに駅前広場の照明が落とされると、一気に拍手が沸き起こりました。ツリー型のキャンドルをはじめ、竹やペットボトルで手作りされたキャンドルは全部で約1,500個。お馴染み「いたちかわらばんの表紙版画」も灯籠となり、多くの方の目を楽しませていました。また会場では、森内直美さんによる「ふくろうめがね」の朗読や、栄区出身のシンガーソングライター tomoko さんによるミニコンサートも行われ、光とボエムとミュージックに包まれながら、皆さん思い思いの時間を過ごしていました。



荒井沢市民の森愛護会、上郷森の会、本郷ふじやま公園、石井造園、リリース、栄区役所の関係者の皆様お疲れさまでした。

タッチー倶楽部で講演（後記）

11月28日(水)、栄区役所で開催された「タッチー倶楽部」の最終回で、OTASUKE 隊の隊長が「いたち川の不思議」をテーマに講演してきました。タッチー倶楽部は、栄区民プロデュース講座の一つで、いたち川について知り、魅力に触れ、そして新たな魅力を発掘しようという目的で行われた講座です。

約30名の受講生が聴講する中、隊長の口からはいたち川にまつわる話が次々に出てきました。いたち川に棲む生き物の話やいたち川に架かる橋の話、魚が棲みやすいように工夫された魚道など河川整備の話、それから隊長が毎号制作している表紙の版画に関する裏話等々……。受講された皆さんは真剣に隊長の話聞いていました。

ところで、横浜にある8つの水系のうち、いたち川が属する境川水系だけが東京湾ではなく相模湾に注ぎ込んでいることをご存知でしょうか。そのため、他の水系では見られない生き物も境川水系では見ることができるそうです。気になった方は探してみたいかが？



隊員募集！

いたち川OTASUKE隊は、「いたちかわらばん」の定期発行を通して、多くの方にいたち川に愛着をもってもらうことを目指して活動している区民のグループです。

いたち川に関する活動に興味をお持ちの方、散歩が好きな方、区内の歴史を勉強してみたい方、いたち川が好きであれば、志望動機は問いません！ぜひ私たちと一緒に活動してみませんか？

◇活動日：毎月1回 原則第4金曜日 14時～16時（場所：栄区役所）

- ◇活動内容：①いたちかわらばんの編集・発行
- ②いたち川に関するイベントの企画・協力
- ③いたち川散策

いたち川OTASUKE隊の活動に参加してみたい！興味があるので定例会に出席してみたい！という方は、栄区区政推進課（045-894-8331）までお気軽にご連絡ください。

発行年月
2012年12月
通刊60号

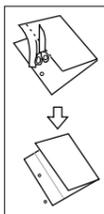
発行：狹川OTASUKE隊（いたちがわおたすけたい）

OTASUKETAI事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260

栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小菅谷 1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせは こちらまで)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



(いもり)

「いたちかわらばん」は次の所に置いてあります（30か所）

〈100号までの道はるか〉

自分は28号からの参加だから32号分、即ち8年間のお付き合いになる。まあ、半分近くお世話になったことになる。関わった時間が長ければそれでよい、と言うものでもないがそれでも半分では偉そうなことは言えない。

鳥やら虫やら魚やら、草やら花やら樹木やら、橋やら堰やら土手やら、崖やら断層やら遺跡やら・・・実に多くのことを学んだ。いたち川がこれらを学ばさせた、と言っても過言ではない。感謝しなければならぬ。

かわら版には学んだことを反映させるべく取組んだ積りだがどれ程のことが出来たか甚だ心許無い。だが、焦ることはあるまい、これからも時間を惜しまずに取組んでゆけば結果は自ずからついてくるだろう。

かわら版100号に向けて更に活動を続けたい。
(ピンテール)

〈それぞれの雑草にも名前があったのだ〉

私は、定年して13年、OTASUKE 隊に誘ってもらってから約12年になります。それまではいたち川を特に意識していませんでした。

私が育った場所は、家の前に水のきれいな広い川がありました。川エビやうなぎ等を採り、夏は川で泳ぎ、本当に川が生活の一部でした。

栄区に引っ越してきて35年になりますが、いたち川との付き合いはまだ12年です。しかし、OTASUKE 隊に入れてもらってからというもの、鳥、虫、草、花、木、そして川の流れなどが身近に感じられ、いたち川を楽しんでいます。

一か月に一度の編集会議も面白い話があり、毎回楽しみにしています。
(勝次)

〈いたち川と共に暮らして〉

私は引っ越して来てまもなく体育指導員になり、その活動の中でいたち川と出会い、33年が経ちます。当時は川の中に自転車が多く投げ込まれており、一年に一度の大掃除の時は、テレビ、冷蔵庫、自転車等をどうやって引き上げるのかを話し合い、皆で掃除しました。その後いたち川は、“環境にやさしい川づくり”を目指した工事が進められ、今では皆が楽しむ川になっています。散歩する人、ランニングする人、リハビリに使う人、野鳥をカメラに収める人など、いたち川は様々な形で利用されています。「いたちかわらばん」を通して川を楽しめ、幸せに思っています。
(和子)

◆栄区役所1階（総合案内） ◆栄区役所4階（45番） ◆栄土木事務所 ◆本郷台駅改札内 ◆港南台駅行政サービスコーナー ◆栄公会堂 ◆栄図書館

いたちかわらばん 60号によせて

〈いたち川OTASUKE隊といたちかわらばん〉

いたち川OTASUKE隊は、1995年10月に「いたち川情報マップ」を作成する目的で、公募で集まった20数名によって結成されました。

基礎資料の収集のため、目的別（水源・流域・生活排水流入箇所・水質・生物）調査を行ったり、20～30年前のいたち川の状態について、地域の人々からの話を纏めたりしました。翌年の3月には“いたち川ふれあいの川づくりマスタープラン”を作成し、区民から見た“いたち川への関心度や評価”をベースにした川の将来像について行政に提言もしました。

1996年8月に初版の「いたち川情報マップ」が完成した後、その間集めた資料を市民に公開するため、いたち川フォーラムを企画し翌年3月に「いたちが◎ワッ!ミュージアム」を開催しました。いたち川が“ふるさとの川づくり河川”として注目されていることを多くの市民に理解してもらうことを目的として、1998年4月より「いたちかわらばん」を発行しました。

会の運営では、会員数の増減を繰り返して一時は消滅の危機もありましたが、発行を待ち望まれる読者からの声に励まされながら現在に至っています。これからも次世代に引き継がれるような「いたちかわらばん」に成るまで頑張っていきたいと思っています。
(水・人・子)

〈かわらばん 人の心に 架かる橋〉

創刊以来「いたちかわらばん」を介して多くの人との出会いがありました。今より身近な自然が豊富で、毎日の暮らしに川を利用して少し昔の先輩たちは各地で面白い遊びを沢山経験したと話してくれました。残念ながら今はそのような遊び方はほとんどできません。

自然界は命を生み育ててくれる半面、災害や危険もあります。人々のかかわり方や手入れをそのままに受け止めて反映する自然の世界から、多くの事を読み取り学んできました。

「いたちかわらばん」の多方面の記事や活動も私には学びの一つの助けとなっています。いっしょに取材の散策を楽しみ、話題が豊富なOTASUKE隊のメンバーに、若い仲間が増えて新たな活動が生まれることを望んでいます。川を見る目にはいろいろな視点があるはずで、新鮮な驚きや発見があるかもしれません。

これから号数が増えても身近に起きることをみんなで考えるきっかけになるような内容を盛り込めるように続けたいと思います。
(うぐいす)

〈ゴム長はいて15年〉

最初にいたち川の情報誌に関わったのは19年前に栄区が「いたち川情報マップ」を作成する時でした。仕事で地図作りに関わっていたので、地図ならばお手伝いできるのではとの思いから応募しました。公募の13名、栄土木と栄区役所の有志併せて20数名で「いたちがわOTASUKE隊」がスタートしました。

独川の植生、野鳥、水質など、いろいろな情報を足で探しました。私は水源調査を担当しました。

長靴を履き早春の瀬上沢で水源を探し回った記憶が鮮やかに思い出されます。

1年後に情報マップが発刊された後の会合で、このままOTASUKE隊が解散されるのは惜しい、との区役所の意向によりOTASUKE隊は独川の情報を発信する「いたちかわらばん」を発行することになりました。

創刊号から15年、流域の環境も大きく変わりました。流域の田んぼは宅地になり、白濁した川もきれいになりました。散策道も整備され、多くの親水施設も造られ、独川は名実ともに栄区のシンボルになりました。

独川に関わっておよそ20年、栄区の豊かな自然を守り育てながら独川流域の情報誌として益々発展するよう育んでいきたいと思います。
(谷溪)

〈いたち川OTASUKE隊は楽しい集まりです〉

「いたちかわらばん」を創刊号の頃から読んでいます。いたち川の草木や生き物のこと、地域の歴史のことなどがたくさん盛り込まれているので水辺愛護会の活動にとっても参考になります。長倉町小川アメニティ愛護会の環境学習イベントを9年続けて開催出来たのは、いたち川OTASUKE隊の宗森隊長や和久井さんにアドバイスや講師をしていただいたおかげです。そんな縁があって、1年前にいたち川OTASUKE隊に入りました。

私の地域活動の軸は防災です。川と地域を知り土砂崩れや洪水など過去の災害を知り学ぶことが必要だと考えています。交流を通じて技術や知識が得られました。これからの大事な生き方も教えていただいたと思います。

「いたち川OTASUKE隊はどんなですか？」との問いに率直に答えると、「先輩隊員は、みんな優しく楽しい集りです。いたちかわらばんの編集会議はとても面白いです。」興味のある方はぜひ参加して下さい。
(うめおきな)